

森づくり
資源活用
実践事業
取組情報

せきしゅうす まいる

石州素舞流 「みんなで森に行こう！」

県央地域での取組事例

次世代を担う子供たちとその親に森林の役割の大切さを知ってもらうために、植樹や間伐の作業、製材作業の見学、地域産材を使ったベンチづくりなどを体験してもらい取組が、今年度3回計画されています。

第1回目は、7月31日大田市三瓶町地内において、市内の小学生やその父兄など41名が参加し、炎天下のなかで間伐作業や製材作業の見学が行われました。



第2回目は、8月25日に大田市三瓶町の「こもれび館」において、会員である大田市建築組合の木工さんが講師となり、木の利用講座が開催され、地域産のスギ材を使ったベンチ作りが行われました。

講座は墨付け作業から行う本格的なものでした。できあがった木製ベンチ20脚は大田市に寄贈され、石見銀山の拠点施設「石見銀山世界遺産センター」周辺に設置されます。



第3回目は、11月25日に植樹作業体験と石州瓦工場の見学が実施される予定です。

石州素舞流は、現在の暮らし方をみつめ、職人の匠の技術と地域にある自然素材（木材、瓦等）を活かし景観や風土を考えた家づくりに取り組む、市内の設計士、工務店、製材工場、森林組合等により結成された団体です。

LOVE
GREEN
WATER

森づくり・資源活用実践事業〈2次分〉の取組

県民の皆さんのアイデアと参加による、森づくり・資源活用実践事業の第2次募集分の取組が決定しましたのでお知らせします。

平成19年度 第2次分決定事業11件

分野	取組の名称	事業概要	実施団体(実施場所)
森を保全する取組	竹藪を竹林に！	所有者の高齢化等により管理できずに竹藪状態になった放置竹林について、地元住民の参加も促しながらボランティアで健全な竹林に整備する。搬出した竹は竹炭、花台などに活用する。	森の仲間(斐川町)
	森づくりに出かけよう！	たくさん自然あふれる身近な森林で、森づくりをボランティア団体や一般市民、近隣の小中高学校とも連携し、次世代を担う子ども達とともに継続的に森づくり活動を行う。今年度は0.2ha程度の間伐や下刈り、枝打ち、植生調査を行い、発生した森林資源はチップにして堆肥化や昆虫の繁殖などに活用する。	万葉公園友の会(益田市)
森を利用する取組	荒廃竹林整備モデル林実証	放置され拡大する竹林に対し、適正本数の維持管理を行うことにより、拡大荒廃を防ぐとともに、たけのこを含めた「竹」の有効資源としての認識を広め、今後の活用を促すためモデル林を整備し県民にPRする。また、伐採した竹を破砕し、林内に敷き詰め、たけのこの糖度向上効果を試験する。	飯石森林組合(雲南市・飯石郡)
	可搬式木質防水版の設計・製作	木材利用を通して県内荒廃森林を再生させることを目的に、水害被害軽減作用を備えた県産材を利用した可搬式木質防水版の設計・製作と実証試験を行う。従来水害時に積み上げていた土嚢の代替品として、特に人目のつく商店街、ホテル、マンション、地下駐車場などで利用が考えられ、設置時の時間短縮や景観対策などの利点もある。	しまねの木を利用する会(松江市)
	間伐材を利用したプランターカバー作り	親子が一緒になって木工を通じ、木とふれあったり、森や間伐の重要性を理解しながら、親子が力を合わせて創作する機会を提供する。作品は浜山運動公園に設置し、多くの県民にPRする。	特定非営利活動法人国際交流フラーワ21(出雲市)
	「わたしたちの水と森」について学ぶ木工学習体験	水と森と暮らしのつながりを、浜田の水源地でもある弥栄町の木材を使った木工体験やフィールドワークを通して学習する。一方、木工加工の技術も継承していかないといけないが、財団がこれまで蓄積してきた技術や経験も活用して、レベルに応じたコース分け等の工夫をしながら、自然と人間活動が共生できる新しい森林資源の活用の道筋を学ぶ。	財団法人島根県西部山村振興財団(浜田市ほか)
	小径木を利用した新伝統工法による住商品の開発	美しい「生きた森」づくりのためには、A材(優良・並材)の小径木を利用した、新しい住まいの開発が必要。今回、家族と比較的近い場所での最小設備を整えた「セカンドルーム」の開発を前提に試験棟を設置し、講演会や見学会などにより広く県民にPRを行い、森づくり・街づくりの一環として取り組む。	石見の森林資源を考える会(浜田市ほか)
木材加工(木柵づくり)体験活動	夏休み親子体験活動を「木材加工」として、志学小学校の少年団と保護者、当委員会、県産材を利用した木柵作りを実施する。完成品は国引きの丘に設置しPRしながら、自然環境の整備保全に役立てる。	三瓶地域再生委員会(大田市)	
森を保全する取組	「島の森づくりは海づくり」事業～隠岐島前森林組合 合併10周年記念植樹～	森林整備事業中心の運営に頼ってきた当組合は、10周年を期に、開かれた組合を目指し、森林保全活動の牽引役を担い、地域貢献にも力を入れていく。今回、森林整備が海づくりにつながる重要性などを島民の皆さんに伝えるため、抵抗性松の植樹活動やイベントでのPR活動、チェンソーの実演を交えた間伐材利用、親子木工教室、大学生との枝打ち間伐体験等を実施する。	隠岐島前森林組合(海士町・西ノ島町・知夫村)
	市民参加による里山再生と木を利用する取組	松江市内から近く、自然の森にふれることができるかんべの里をフィールドに、里山づくりを行う。今回市民ボランティアによる不要木の伐採などの森林整備や、伐採した木材を利用してベンチや東屋を協同制作し、子どもたちを対象とした遊具作りなども実施する。	かんべの森を守る会(松江市)
	森林とのふれあいと作業拠点づくり	自然や人とのふれあいから心の成長を促す子供の会(3集落合同)で地域の特性を活かした環境教育活動を総合的に推進して、次世代を担う子供たちと高齢者の森づくり活動を積極的に展開し、森の文化・木の文化の継承を目指す。今回地元ボランティアによる県産材を利用した拠点づくりと、森づくりの講座、シヤケづくりなどを実施する。	程彼自治会(津和野町)

平成19年度 第1次分追加決定事業1件

分野	取組の名称	事業概要	実施団体(実施場所)
森を保全する取組	間伐材のリサイクルによる里山づくり、まちづくり	森林の整備や里山づくりなどで伐採された木竹材を活用し堆肥をつくり、植栽時などに活用し、荒廃した里山の再生を行う。また、八重垣の里「空山」を体験型環境教育の場とし、拠点整備や広葉樹の植栽などを実施しながら自然と共生したモデル地区を作る。	松浦造園株式会社、NPO法人まちづくりネットワーク島根、あすなろ自然塾(松江市)

みず・みどり みまもり はぐくむ 森がすき

み〜も通信

水と緑の森づくり情報誌

秋
AUTUMN

2007.10
Vol.10

森づくりサポートセンターを設置しました。

森づくりサポートセンターとは？
森づくり活動を行いたいという皆さんへ、イベント情報、指導者の情報、道具の貸し出し情報など様々な情報を提供いたします。

どんな情報が得られるの？

- 森づくり活動等を行う団体の情報
- 参加型イベントの情報
- 指導者の情報
- 道具類の貸し出し情報

<http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/sapotosenta.html>



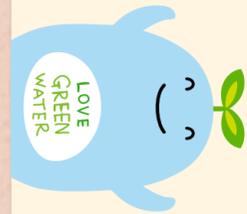
「水と緑の森づくり」県民アンケート調査の結果について



昨年に引き続き「水と緑の森づくり税」の認知度や、県民の皆さまの「森づくりに対する意識の変化」を把握し、「水と緑の森づくり事業」を検証するために、県内各地域で851人を対象にアンケート調査を行いました。

前年の調査と比較すると、税そのものの認知度はまだ低いですが、全体として森林や森づくり、あるいは地域の木材利用に対するの興味や関心は向上し、かつ高い割合を示しています。その他主なところでは、森づくり・資源活用実践事業の周知度が大きく向上していました。この事業は、NPO、自治会、団体などが、森づくりや木材利用を推進する活動をされる場合に支援するもので、昨年度末現在で76団体にこの事業を活用して頂いております。このことから、税の使途について県民の皆さんの周知度が高まっていることがわかります。

アンケート結果は次のとおりです。アンケートにご協力頂いた皆様ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を今後の取り組みの参考にさせていただきたいと思っております。



回答者の年代



回答者の性別



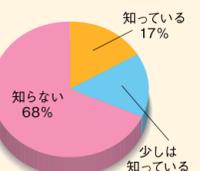
Q1 森林が荒れていることに対する認知度



Q2 水森税の周知度



Q3 再生の森事業の周知度



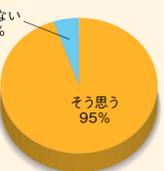
Q4 森づくり資源活用実践事業の周知度



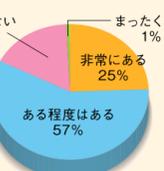
Q5 各種PR活動についての認知度



Q6 地域産木材を利用することの必要性



Q7 森林への興味や関心



Q8 森づくりボランティアへの参加



森林セラピーってご存じですか？

森林セラピーとは

“森林浴”という言葉が誕生して既に20年以上が経過しました。木々の緑を目にするこや鳥のさえずりを耳にすることなどで、心と体がリフレッシュされることは広く理解されていました。

しかしながら、森が心と体にもたらす効果については、経験的あるいは感覚的に語られていたにすぎず、これまでその効果の科学的な解明はさほど進んでいませんでした。

そこで、森が持つ癒し効果を科学的に解明し、心と体の健康に活かしていこうという取り組みが始まりました。それが森林セラピーです。

人間はもともと自然環境の中で生活していました。現代の人工的な環境での生活は、本来の人間の生活とは違い、大変なストレスを与えます。森林セラピーは、このような環境からのストレスを改善するという点からも、大きな効果を持っており、人々の心を癒すといわれています。



島根県では

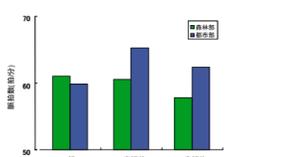
島根県内では、飯南町の「島根県民の森」において昨年9月に生理実験が行われました。

森林内とJR松江駅前で比較実験を行った結果、血圧には森林の有意差が認められませんでした。脈拍数や唾液中コルチゾール、副交感神経活動と交感神経活動の数値は森林内での数値に有意差が認められました。

この結果、今年3月に「島根県民の森」が山陰地方では初めての「森林セラピー基地」として認定されました。

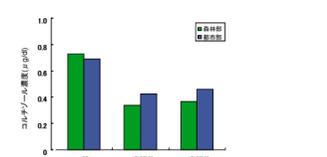
●脈拍数

森林内では脈拍数が低くなり、穏やかな状態でいられた。



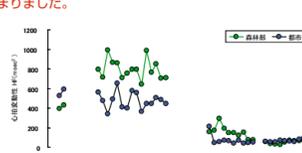
●唾液中コルチゾール

森林内では唾液中のコルチゾール濃度が低くなる傾向にありました。



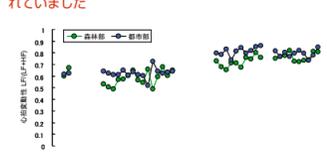
●心拍変動性(HRV)のHF成分

(副交感神経活動を反映) 森林内ではリラックス時に高まる副交感神経活動が高まりました。



●心拍変動性(HRV)のLF/(LF+HF)成分

(交感神経活動を反映) 森林内ではストレス時に高まる交感神経活動は抑制されました。



森林セラピーの一例

飯南町では、地元の宿泊施設や企業、グループ、保健師などと連携して、森林セラピー基地を中心とした「癒しと健康」の旅行プランを企画し、交流人口の拡大に取り組まれています。



保健師にヘルスチェック



森林セラピーガイドの親切な案内による森林散策



地元の山野草をふんだんに使ったお弁当



ゆったり水辺に座って自分を見つめる



飯南町の森林セラピーに関するお問い合わせは下記へお願いします。

飯南町里山コミッション設立準備委員会

〒690-3513 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地
TEL:0854-76-2903 FAX:0854-76-2869

【担当: 横野さん・玉野さん】

「森への想ひ」入選作品

昨年度募集しました「森への想ひ」の入選作品を今号より紹介いたします。第1回目は、小学生の部で特選に選ばれた岡本優花さん(受賞当時小学校6年生)の作品です。

環境について学んで

私は、森林や環境について今までたくさんのことを学びました。

一つは、尾原ダムを建てるために、木を切り森をこわして山をはげ山にした所がたくさんあります。これは、ダムがないと水害が起こりすこく苦しむことになってしまうからです。でも、一度木を切り森を壊してしまうと、もう自力では山はもとにもどることができません。そこで、私達がみんなのために、そして自分達のために、みんなで協力し合って森林をとりもどすために何が出来るだろうと考えられたのがどんぐり竹ポットを作ったという活動です。

この活動は、斐伊川クラブの方達と、どんぐりの木が大きく育つように、育ちやすく、環境にもいい竹ポットを作って、木のなくなった所へ植えるのです。そうしないと、雨が降った時など、土砂崩れが起きたり、木がないために水がゆっくり流れずにどぼと落ちて、洪水の危険があるからです。

せっかくダムが完成しても、木がないと、こういった災害があると意味がありません。森林を守るために、今、私達が協力し合って、やっていかないとはいけません。

十一月に、どんぐり竹ポット引き渡し式がありました。たくさんの学校の人たちが森林を守るために、引き渡し式に参加していました。

いろいろダムの事について聞いてみると、ダムを造るためには土地があるので、建設される場所に住んでいる人は、別の場所に移動しなくてはなりません。斐伊川下流域の人達のために、自分の家の土地をゆずってくださったのです。尾原地区の地域の人達にもたくさん協力してもらっているということが分かりました。それだけ大規模なダムなので、私達が一人一個ずつ作った竹ポットだけでは、森林をもとにもどることはできません。五年後のダム完成までに、続けて実行していけたらいいと思います。

最近では、ニュースでもよく地球温暖化が進んでいるとか、砂漠化が進んでいるなど、いろいろ

な事を耳にします。地球は、地球温暖化が進み、あちらこちらで砂漠化が広がっています。森林がなくなっているのです。風が強い土地などは、暴風林といって木を植え、風を防いでいる所中にはあります。

森林がなくなることによって、大きな災害が起こります。例えば、砂漠化が進んだ場合、作物ができなくなり食べる物も少なくなり、やがて地球に食べ物がなくなってしまいます。それに、森林がなくなってしまうと、私達にとって大切な空気、つまり酸素が減り、二酸化炭素が増えて呼吸が出来なくなり、人間は生きていけなくなります。そうすると地球には住めなくなります。人の生活、生きていくためには森林はなくてはならない存在です。

人と森林はつながっているのです。だからおたがいに助け合って生きていかなくてはならないのと思います。

森林は、どれだけ必要であるかをよく考えてみると、大切さがとても分かります。六年生まで環境や自然の事について学んでみて、きっと、私の知っている事以上にたくさんの事が環境の中で起こっていると思います。

私の通学路には、たくさんのゴミが落ちていました。木の周りに落ちていた物を拾ってみると、その場所に一つの若葉が芽生えていましたが、それはもうかれてしまっても元気がなかったのでもうゴミが増えると森林も減るし、町も汚れてしまうんだと実感しました。

こんなに何気ないことでさえ森林を壊し、自然を破壊しているのだから、私達がこわしたのなら私達が直していかないとはいけません。

地球の森林をこのままにしておくのか、それともみんなで協力して森林をとりもどすのか。私は森林を大切にしないとはいけないと思うから、ちょっとしたことからやっていって砂漠化や地球温暖化から森林資源を守っていけたらいいなと思います。

未来は私達が守っていきたいです。

岡本 優花さん